

# 要ヶ丘



発行

海士町立海士中学校

住所 海士町大字海士九四四番地

TEL 08514(2)0744

## 全隠岐陸上

四月二十九日(日)、隠岐高校グラウンドにおいて第七十二回全隠岐陸上競技選手権大会が開催されました。総勢二十三名の生徒が出場し、チーム海士中学校として走り、跳び、投げ、戦ってきました。ベスト記録が出た生徒、そうでなかった生徒、入賞した生徒、そうでなかった生徒などありますが、チーム一丸となって、マナー面や応援に取り組めた事がとても良かったです。ご声援くださった地域の皆様、保護者の皆様、誠にありがとうございました。今回の経験を生かして、次の学校行事、隠岐郡体育大会へつなげていきたいと思えます。

### 全隠岐陸上を振り返って

私たちは、今回の全隠岐陸上大会に向けて春休みから練習を積み重ねてきました。辛い時に応援してくれる仲間がいること、自分のライバルを見つけて、一生懸命走れるところが海士中のいいところだと思います。長距離の人も、短距離の人も、一秒でも自分のタイムを縮められるように精一杯頑張ってきました。

本番では、ケガなどで、自分の理想のタイムが出せなかった人もいるかもしれませんが、でも、今までの練習の成果はしっかりと出せていたと思います。

三年生は今年で最後の隠岐陸上でしたが、一、二年生は来年もあるので、そこでまた自分のタイムを上回ってほしいと思います。

【生徒】

僕たちは全隠岐陸上大会に出場しました。今回の大会では、一位での入賞はできませんでしたが、練習では全員とてもきつそうだったけれど、みんな最後まで頑張っていました。今回で僕たち三年生は終わりだけどたぶんみんな悔いのないような走りができたと思います。二年生はまだまだ伸びると思うので、来年は優勝目指して頑張ってほしいです。一年生は、今回の大会でどのような雰囲気かわかったと思うので、来年も頑張りたいと思います。今回の大会では優勝できなくて悔しかったけど、三年生は楽しくできていたし、一年生と二年生は優勝できるようにこれから頑張りたいです。僕も悔しかったけど、楽しくできたので良かったです。

【生徒】

## ソフトテニス

### 出雲地区大会

今回の出雲地区では、いろいろなことを学ぶことができました。試合に勝つことはできませんでしたが、他校の練習を見たり、強いペアのプレイを見て、参考にすることもできました。自分と県の強い人達と比べて、自分の出来ていないこと、強い人達がやっていることが分かったので、そういったところを直したり、まねしたりしたいです。今回学んだことを活かせるようにこれからも自分の意識を高めていきたいです。

【生徒】

出雲地区大会での一番の感想は、試合で体が固まってボールをうまく返せなかったことです。だから、いつも体は楽にしたいです。サーブではあまりファーストが入らなかったの、ファーストサーブの確率を上げてできるだけセカンドサーブを減らした試合ができるようにしたいです。試合では勝てそうな相手でしたが、今までやってきたことがあまり発揮できず、ミスが多かったです。だから、試合でもやってきたことが発揮できるようにすることと、つまらないミスが減らすことを意識したいです。試合以外では、他の学校の試合を見て、いっぱい勉強になりました。これからは人の良いところをまねして出雲地区の経験を次の大会に活かしたいです。

【生徒】

# JJWeek

海士中学校では、生徒の学力向上と家庭学習の習慣づけをねらいとし、毎日自学ノートに取り組んでいます。その自学ノートの取組の一環として、定期テスト期間中には『JJWeek』が開催されます。

J(自学)・J(充実)・Week(週間)と題したこの期間中、生徒たちは自分の自学ノートからベストな一日分を選び、そのノートを掲示します。そして生徒と教職員による投票によって『生徒が選ぶベストノート』『先生が選ぶ真似してほしいノート』が選ばれます。これは、毎日行っている自学ノートを他の人が評価することで意欲を高めたり、他の人のノートを参考にしたりより良い自学を目指したりすることがねらいです。今回賞に選ばれた人もそうでない人も、今回の結果やノートを参考にし、より充実した自学を目指してほしいと思います。



## 『演劇鑑賞〜ヘレン・ケラー〜』

東京演劇集団「風」による「ヘレン・ケラー」の演劇を鑑賞しました。信じる強さや諦めない心、そして心が通じたときの素晴らしさを感じさせる劇でした。また、舞台裏を見せていただいたり、劇団員との交流もあり、九月の学園祭が楽しみになりました。

## 『挨拶運動』

民生児童委員の皆様が「地域で子どもを育む」一環として、登校時に挨拶運動を実施されました。地域、家庭、学校が三位一体となって子どもたちに関わることで、健全育成が図られることを願っています。

# 隠岐郡体育大会へ向けて

僕たち男子バレー部は、郡総体優勝を目標に頑張ってきました。試合では、みんなで大きな声を出して最後までボールを追いかけて、ボールをつないで優勝したいです。三年生は最後の大会になるので、悔いの残らないようにしたいです。応援よろしくお願ひします。

【生徒】

僕たち男子ソフトテニス部は、今、郡総体に向けて練習しています。たくさん的一年生も入れている練習で、慣れないところや、もどかしいところもありましたが、みんながどんどん成長してきて、練習の内容もよくなってきました。大会までに今見つかっている課題を直し、結果はもちろん、試合内容も悔いの残らないようにしたいです。

【生徒】

私たち女子バレー部は、郡総体優勝を目標に今まで練習を頑張ってきました。これまでウィンターカップやジュニアカップに参加できなく、悔しい思いをしてきたので、その思いを郡総体にぶつきたいと思います。そして、優勝して県総体に行けるように頑張ります。応援よろしくお願ひします。

【生徒】

女子テニス部の郡総体の目標は、「県総体出場」です。そのために練習では、一球一球を大切に打つことを目標にしています。郡総体まであと少しなので、一人一人がさらにレベルアップできるように課題などを直していきたいと思うし、声かけなども全員が声を出して練習の雰囲気をよくしていこうと思います。

【生徒】

## シリーズ

### 子育てについて考える

「七割でよしとする」

我々大人は、子どもに対して、「もつとできる」「がんばれ！がんばれ！」とよく言います。子どもたちを叱咤<sup>しつたげ</sup>激励し、鍛えることは大切なことですが、子どもの実態をしっかりとらえた上で行う必要があります。実態をとらえ、いかに意欲的に取り組ませればよいか、イルカの例を参考に述べたいと思います。

プールの上に掲げられたバーをイルカが飛び越える芸は、最初から高いバーを越えさせようとしてもうまくいきません。最初は水の中にバーを設け、それを通過したときに褒めます。そこからバーをだんだん上げていき、成功したら褒め続けます。そうしている内に、プールののはるか高いところに掲げられたバーをイルカは楽々と越えられるようになります。

人間も同じではないでしょうか。頑張ることができるようになったところを褒め、だんだん目標を高くしていくことで、初めはとでもできそうになかった大きな目標が達成されるようになります。

初めから百点をめぎすのではなく、七割程度できたら褒めることが、子どもを意欲的にさせるコツかもしれません。

【真野 幹】